

令和3 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	前期 木曜・2時限	教室名	4校舎401教室
担 当 教 員	小川正子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
人間の行動の原動力となる心の働きに注目し、そのメカニズムについて学び、理解する。臨床における心理の技法についての基礎知識を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
内規に定めた通りとする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書は使用しない。 参考図書:「言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版株式会社)」「言語聴覚士テキスト(医歯薬出版)」						
《授業外における学習方法》						
配付資料を見直し、言語聴覚士国家試験問題の関連領域を読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
心理学の研究領域を概説するが、言語聴覚士にとって心理学の一部を学ぶ意義を理解してほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神物理学に関する理論の違いを説明することができる。	配付資料 PC プロジェクター	言語聴覚士国家試験問題の該当する分野の問題を読み、理解することができる。	
		各コマにおける授業予定	「心理学の歴史と心理学の視点」心理学史を通して、心とは何か、心理学における心を理解する視点を学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士国家試験問題の中から、感覚や知覚に関連する問題を読み、内容を理解することができる。	配付資料 PC プロジェクター	事前に過去問題を配布するので、読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「感覚と知覚の現象①」心の働きの出発点として、感覚・知覚に生じる様々な現象を学び、理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚と知覚の現象に関連する用語を挙げるができる。	配付資料 PC プロジェクター	用語の確認小テストを実施するので、配付資料を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	「感覚と知覚の現象②」前回の続きと、認知の働きについて概説する。過去問を読み、理解度を確認する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	動機の種類を挙げるができる。	配付資料 PC プロジェクター	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「欲求と動機①」行動の原動力となる欲求と動機、動機づけについて学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を読み、内容を理解することができる。	配付資料 PC プロジェクター	過去問題を読むため、配付資料に目を通し、復習しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	「欲求と動機②」前回同様に欲求・動機・動機づけについて学び、過去問を読み、理解を深める。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	感情の種類とその内容を結びつけることができる。	配付資料 PC プロジェクター	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「感情」感情状態(予期感情や行動の結果生じる感情)の行動に及ぼす影響は大きい。感情に関する理論と行動に影響を及ぼす機能について概説する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーソナリティに関する理論を自分の言葉で説明することができる。	配付資料 PC プロジェクター	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「パーソナリティ」我々は、言動から他者のパーソナリティを推測する。心理学にはどのようなパーソナリティ理論があるのか、概説する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題を解くことができる。	配付資料 PC プロジェクター	これまでの配付資料を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「中間テスト」これまでの授業を振り返り、言語聴覚士国家試験に出題される領域を中心にテストを行い、理解の定着を図る。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	古典的条件づけとオペラント条件づけの違いを説明することができる。	配付資料 PC プロジェクター	参考図書の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「学習心理学」特に条件づけの理論を概説する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の種類を挙げることができる。	配付資料 PC プロジェクター	条件づけの小テストを行うので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「認知心理学①」記憶の種類について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	用語を挙げることができる。	配付資料 PC プロジェクター	記憶と思考の領域の過去問題を実施するので、資料を読んで復習すること。
		各コマにおける授業予定	「認知心理学②」思考・問題解決・推論、それぞれの思考のプロセスについて学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	集団が個人に影響を及ぼす要因に関する用語を挙げることができる。	配付資料 PC プロジェクター	事前学習課題を用意するので、授業前にやっておくこと。
		各コマにおける授業予定	「社会心理学①」集団が個人の心理に及ぼす影響について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	リーダーシップ理論に関係する用語をあげることができる。	配付資料 PC プロジェクター	配付資料を読んで復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「社会心理学②」リーダーシップ理論について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を読み、内容を理解することができる。	配付資料 PC プロジェクター	過去問題の発達に関連する問題に目を通しておく。
		各コマにおける授業予定	「発達心理学」発達心理学がどのような研究領域であり、言語聴覚士国家試験ではどのような出題傾向があるのかについて学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を読み、内容を理解することができる。	配付資料 PC プロジェクター	授業で取り上げた心理的機能に関する国家試験の過去問題を読むので、過去の配付資料を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「国家試験対策」これまでの授業と過去問題を振り返る。		